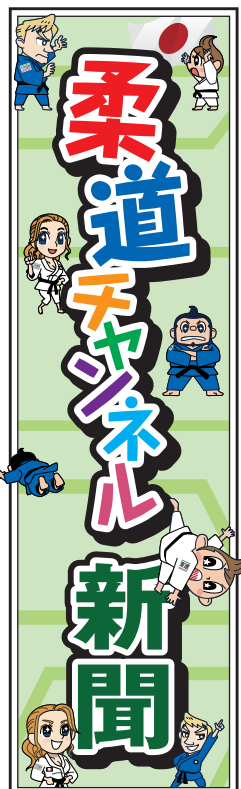




▲優勝の立役者となった桐蔭学園・大将の関根。決勝でも2人抜きで逆転劇を演じて見せた

神奈川県対決を制し 桐蔭学園高校が冠達成!!



福岡県福岡市のマリンメッセ福岡において、7月21日(土)から3日間にわたり、熱い戦いが繰り広げられてきた金鷲旗高校柔道大会は、24日(月)の男子団体決勝で戦いの幕を閉じた。

男子決勝は、春の全国高校選手権大会の覇者である桐蔭学園高校と、東海大相模高校の神奈川県勢による対決となり、手に汗握る接戦の末、桐蔭学園が12年ぶり2度目の優勝。ベスト4には長崎日大高校(長崎県)、延岡学園高校(宮崎県)が入るなど、九州勢の躍進も目立った大会だった。

東海大浦安、中京学院大中京は4回戦で敗退

シード16校は、昨年の大会や全国高校選手権大会、各地区大会の結果を踏まえての選出ということだが、基本的には全国高校選手権のベスト16校が選出されている。そのうち今大会に出場していない神戸国際大学附属高校の代わりに、国士館高校が選ばれた。中京学院大中京高校(岐阜県)が4回戦の群馬常磐高校(群馬県)に不戦2人残しで敗れ、東海大浦安高校(千葉県)も4回戦の北海道(北海道)に大将同士との戦いの末、逆転負け。さらに九州学院高校(熊本県)も4回戦で韓国の普成高校に大将同士の戦いで敗れたほか、東海大仰星高校(大阪府)は5回戦で、足立学園高校(東京都)に、やはり大将同士の戦いの末に惜敗。6回戦を前に姿を消した。

ベスト16に進出したのは、桐蔭学園高校、東海大静岡翔洋高校(静岡県)、足立学園高校、埼玉栄高校(埼玉県)、崇徳高校(広島県)、国士館高校(東京都)、長崎日大高校、福岡大濠高校(福岡県)、大成高校(愛知県)、北海高校、日体大荏原高校(東京都)、東海大相模高校、延岡学園高校、新田高校(愛媛県)、国東高校(大

分県)、大牟田高校(福岡県)。

6回戦で最も注目を集めた崇徳高校と国士館高校の対戦は、国士館が1点ビハインドの状態でも1年生エースの大将・斉藤立の出番を迎え、人を抜いて大将同士としたものの、崇徳・大将の長岡季空の袖釣込腰を安易に受けて「技あり」を奪われ、横四方固に抑えられて敗退。勝った崇徳が準々決勝に進むこととなった。



▲6回戦。注目を集めた国士館の斉藤は、大将同士の戦いで崇徳の長岡季空に苦杯

その他の6回戦で際どい接戦となったのは、大成高校と北海高校の対戦。取りつ取られつものシーソーゲームとなった両校の対戦は、大将同士の戦いとなったが、大成エースの東部直希が北海の大将・葛西純平に大外刈で二本勝ちし決着をつけた。

九州勢が躍進。長崎日大と延岡学園がベスト4に進出

【準々決勝】

桐蔭学園高校 vs 足立学園高校

崇徳高校 vs 長崎日大高校

大成高校 vs 東海大相模高校

延岡学園高校 vs 大牟田高校

第2シードの桐蔭学園とノーシードから勝ち上がった足立学園の対戦は、60kg級の小兵ながらポイントゲッター



▲準々決勝。桐蔭学園・中堅の千野根が大内刈で足立学園・副将の上額を一蹴

の先鋒・武岡毅が、まさかの反則負け(ベアハグによる)で出鼻をくじかれた足立学園が、挽回を図ろうとするも、桐蔭学園から連続ポイント奪うことはできず、最後は大黒柱の山本瑛介が桐蔭学園の副将、村尾三四郎に大外刈で本負けを喫し終了。準決勝進出はならなかった。

優勝候補の一角と見られていた崇徳は、先鋒戦で兼藤仁士が蠣崎洸太に「技あり」で取られ追う立場に。副将戦で神垣和音が内股「本」で取り返して追いつくも、大将同士の対戦で、長岡季空が「技あり」を先行しながら、山口貴也に攻め込まれ、「指導」3による反則負けを喫してまさかの逆転負け。準決勝を前に畳を降りることになった。

大成と東海大相模の有力校対決は、次鋒同士の戦いで、東海大相模・平下麟太郎が大成の藤鷹裕大に内股で二本勝ち。このリードを守り切った東海大相模が準決勝へ進んだ。延岡学園と大牟田の対戦は、先鋒から副将まで引き分けという息詰まる戦いとなったが、大将戦で、延岡学園・波多野竜輝が大牟田の田中優大を小外刈で二本勝ちし勝負を決めた。

決勝は春優勝の桐蔭学園と 東海大相模の神奈川対決

【準決勝】

桐蔭学園高校 vs 長崎日大高校
東海大相模高校 vs 延岡学園高校

先鋒の桐蔭学園・賀持喜道と長崎日大・嶋崎洗太、次鋒の桐蔭学園・湯本祥真と長崎日大・山口雅矢、中堅の桐蔭学園・千野根有我とニコ・グデイの試合がいずれも引き分けに終わり、緊迫した展開となったが、桐蔭学園・副将の村尾三四郎が長崎日大・



▲準決勝。桐蔭学園・副将の村尾が内股透で長崎日大の永田に一本勝ち

永田賢斗の内股を股の間で透かして一本勝ちして1点リード。村尾は続く大将の山口貴也には攻め込まれて「指導3」の反則負け。勝負を託された桐蔭学園のエース・関根聖隆は得意の二本背負投、大外刈で山口を攻め込み、「指導2」による僅差勝ち。頼りになる主将・関根の活躍で、桐蔭学園が決勝進出を決めた。

もう一方の準決勝は、開始早々に大きく戦況が動いた。東海大相模の先鋒・榎田大が延岡学園の岩佐哲汰を二本背負投で破ると、続く棚橋慎之介にも背負投で二本勝ち。あつという



▲準決勝。東海大相模の榎田は3人目の小島からも背負投で「技あり」を奪うも終盤に反則負け

間に東海大相模が2点リードに。榎田は続く延岡学園・中堅の小島孝太からも背負投で「技あり」を奪うも、疲れのために守勢となった終盤、3つめの「指導」を取られて反則負け。しかも

桐蔭学園が激戦を制し 12年ぶり2度目の優勝飾る

【決勝】

桐蔭学園高校 vs 東海大相模高校

先鋒 賀持 喜道 榎田 大人
次鋒 湯本 祥真 平下 麟太郎
中堅 千野根有我 笹谷 健
副将 村尾三四郎 宮原 峻汰
大将 関根 聖隆 石川 智啓

神奈川県予選で桐蔭学園に敗れ、全国高校選手権大会とインターハイ

出場を逃した東海大相模にとって、この金鷲旗が唯一、全国優勝を目指せる大会というわけで、優勝への強い思いを持って臨んだ今大会。これまでの戦いぶりにもその思いは十分に表れていたが、決勝においても、気迫あふれる試合を見せた。



▲決勝。桐蔭学園・次鋒、小兵の湯本が東海大相模・先鋒の榎田に大内刈で一本勝ち



▲決勝。桐蔭学園・次鋒、小兵の湯本が東海大相模・先鋒の榎田に大内刈で一本勝ち

湯本は、続く平下に対しても小気味のいい動きから内股で攻めるも、平下が体格差を見せつけるように、湯本を強引に小外掛でふっ飛ばして「二本」。平下は続く千野根に対しては、守勢となり「指導」を先行されるも、後半、千野根の内股を透かして休落に入り「二本」。リードを広げた。

平下3人目は桐蔭学園ポイントゲッターの村尾。村尾は左袖釣込腰からの小内刈で「技あり」を奪ったあと、平下が小外刈に入ろうとした瞬間をとらえ、大外返で二本勝ち。村尾は続く笹谷と引き分け。大将・関根に、東海大相模の副将、大将を残してバトンタ

ツチすることとなった。
東海大相模の残る2人は、186cm 130kgの宮原と、178cm 120kgの石川。対する関根は175cm 95kg。体格的には絶対的に東海大相模優位の状況。しかし、こんな状況のなかでも、いつも通りの戦いのできるのが、監督からも仲間からも全幅の信頼を受けている関根の凄さ。

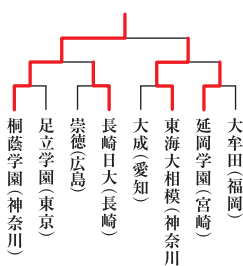
関根は、宮原との試合では体格差をもとめせず、得意の左二本背負投と左大外刈で攻め込み、宮原の「指導」を誘うと、最後は豪快な二本背負投で投げ捨てて「二本」。場内には、大歓声が沸き上がった。

大将同士の戦いは、関根が左二本背負投、左大外刈、小内刈と波状攻撃を仕掛け、石川がしつかりと受け切りながら、返しや小外掛などで反撃する展開。技数で翻弄しながら、二発を狙う関根は終盤、二本背負投から大内刈さらに踏み込んで小内刈に入れば、石川は小外で切り返そうとするも、返し切れずに横倒しに倒れて「技あり」。終了間際、守勢となった関根に2つ目の「指導」が与えられるも、そこでタイムアップ。この瞬間、桐蔭学園の12年ぶり2度目の優勝が決まった。



▲大将同士による決着となった決勝。桐蔭学園・関根が執念の小内刈「技あり」で逆転勝利

平成29年度 金鷲旗高校柔道大会 男子団体戦の結果



優勝	桐蔭学園高校
準優勝	東海大学付属相模高校
3位	長崎日本大学高校
	延岡学園高校



▲歓喜の優勝監督胴上げ。宙に舞う高松監督

「今大会は、関根の大会だと思っていた。決勝は苦しい展開だったが、関根ならやってくれると信じていた」とは高松正裕監督。「でも、最後は関根に頼った形になったが、それまでの試合、全員が自分のすべきことをやり、いい形で関根に回すことができたことが勝因。決勝の東海大相模は本当に、実力のあるチームで紙重でした。一番難しいと思っていた金鷲旗を獲れたので、次はインターハイでしつかり『三冠』を狙いたいと思います」